

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195100052		
法人名	フジ総合サービス株式会社		
事業所名	グループホームまごの手		
所在地	北海道紋別市南が丘町4丁目5-21		
自己評価作成日	平成23年8月21日	評価結果市町村受理日	平成23年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から2年目になり地域の方たちとも交流する機会も増え少ずつですが、馴染みの関係を築いているところ。地域のイベントや町内会行事・地域の中学生の職業体験やボランティアの受け入れも積極的に行い開放的な施設を目指しています。「家庭的な雰囲気のもと我が家のように生活できる環境を提供します」を基本理念として掲げ、ホーム長をはじめ職員一同でご利用者様を中心に生き生きと生活していただけるよう笑顔で接し笑いの絶えないような支援をしています。自立した生活を送って頂けるよう、個々の能力に応じた支援を行い身体機能を維持するためにリハビリや日常生活にて残存機能が発揮できるように共に支え合い協力しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0195100052&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成23年9月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成21年開設の「グループホームまごの手」は、開設に先立ち代表者、管理者が「利用者・職員にとってより良い住環境とは」を模索し、他地域のグループホーム数カ所を見学して建設されており、平屋建て2ユニットの事業所は各ユニットのリビングが隣接し仕切りが一部開放された造りとなっています。その造りを活かし常日頃から利用者、職員は行き来して交流する事が出来、特に夜間は職員が協力し合い安心感を持ってサービスの提供が出来る環境となっています。又、サービスの充実と向上を目指し管理者、職員は各分野の係りを設け、記録様式の変更や、環境整備、行事立案等々運営面にも自主的に取り組み効果を上げています。介護理念は開設時に職員アンケートを実施して決定しており、親しみ易く、このような介護を行いたいとの思いが込められ毎日のサービス提供の道しるべとして実践されており、透折や在宅酸素治療の利用者も受け入れきめ細かく工夫しながら温かな利用者本位のサービスの提供に努めています。又、事業所内にAEDを設置し緊急時にも配慮しています。本年2月に家族会を設立し、意見、要望を聞く機会を設け運営に反映しながら家族と共に地域の中で利用者を支える取り組みを行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	道しるべとなる運営理念・介護理念を月に数回は朝のミーティングで唱和し職員と共有しています。また目にとまり易い玄関やリビングにも掲示し意識づけることで実践につなげています。	開設時に職員アンケートを実施し、親しみ易く、自分達の目指す介護への思いを込めた介護理念を作成し、朝礼時に唱和し和やかで笑い声のあるサービスの実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や地域のお祭りには積極的に参加しています。近隣の小学校からは運動会にも招かれ交流を深めています。	町内会に加入し、野遊会や清掃に利用者と参加し交流に努めています。高校生や社会福祉協議会のボランティアの受け入れ等地域に開かれた事業所を目指し取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の福祉事業者と協力して「認知症支援の会」を作りサポーター講座等の活動に取り組んでいます。又「介護者手をつなごう会」にも参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員には町内役員や市の福祉課担当者・福祉関係者・ご家族・利用者様代表・管理職員・介護職員で構成され利用状況や事故報告・ホーム紙を用いて活動を報告し貴重な意見や助言を頂きサービスの向上に活かしています。	2ヵ月毎定期的に開催し、状況報告や懸案事項に付いて話し合いサービス向上に活かすべく取り組んでいます。議事録は家族に送付し、情報の共有を図っています。交替で職員も参加しており、会議時に報告し、議事録を回覧し周知を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主催する会議や研修会には出来る限り参加しています。相談や質問は直接伺う事もありますが電話や運営推進会議でも取り組みを伝え協力関係を築いています。	運営推進会議に市の担当者が参加しており、会議時や直接出向き相談や情報交換に努めています。社会福祉協議会主催の研修会に参加したりと行政や関係機関と連携に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修やスタッフ会議において職員は身体拘束を学び相手の立場に立って考える事で身体拘束のないケアに取り組んでいます。また夜勤者が一人になる夜間帯以外の施錠は行っておりません。	管理者、職員は外・内部研修で身体拘束の禁止事項を学び、様々な工夫をしながら身体拘束をしないケアを実践しています。年に一度各ユニットで尊厳保持、虐待・身体拘束について自己評価を実施し理解と確認に繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は外部研修やスタッフ会議等で学ぶ機会を持ち情報交換やチェック表を活用し虐待防止の徹底に努めています。		

グループホームまごの手

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は外部研修やスタッフ会議等で学ぶ機会を持ち必要性を理解し活用実践している利用者様を支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書を読み上げ説明し理解と納得を得ています。解約又は改訂の時には話し合いや説明する機会を設け不安や疑問の解消に努め理解と同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月に一度の運営推進会議にはご家族と利用者様の代表にも出席していただき年に一度は意見や要望を表わせる家族会を開催しています。毎月送るホーム便りに意見要望欄を設けニーズの把握に努めております。	家族会を設立し意見交換の機会を設けています。毎月送付する便りの時にも意見、要望の表出を呼びかけ、家族の訪問時にもコミュニケーションを心掛け、寄せられた意見要望は職員で共有し運営に反映する様努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や職員アンケートから意見や提案を聞き受け入れ可能な内容は早めに対応できるように実践できるよう対応しています。	代表者、管理者は職員会議時や日常業務の際に職員の意見や要望を受け止め運営に反映させています。職員アンケートを実施し、個人面談を行い就業環境の整備に努めると共に職員の希望を取り入れた研修にも取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の努力を把握する為報告書や自己チェックシートを活用しています。日頃からコミュニケーションをとる事で働きやすい環境づくりを心がけアンケートや面接する機会を設け就業環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や関係機関が開催する研修会には出来る限り参加しています。一人ひとりの力量を把握し他施設との協働研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉事業者と交流する機会を作りネットワークの構築やケア技術・サービスの向上にもつながるように取り組んでいます。他地域のグループホームとも協働研修を行っています。		

グループホームまごの手

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族と話す機会を設け不安の軽減に努めています。情報はスタッフ間で共有しケアの統一を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様ご家族とも話し合いの場を設け不安軽減に努めています。又、安心したサービスを提供する為日々の様子は面会その他電話や介護記録を送付して情報交換しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族のお話を伺いその方に適したサービスを見極め検討し場合によっては他の事業所のサービスも紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気や心掛け個々の思いや人生の先輩である知識と経験を尊重し共に協力し支え合える関係作りに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日常生活の様子を記録し毎月ご家族に郵送しています。ご家族との連携を密にし生活や医療の双方で共に支え合う関係作りに努めています。行事等にも参加してご本人との楽しい時間を過ごして頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開放的なホームを心がけ気軽に訪問していただいたり馴染みのお店やかかりつけの病院・お寺理美容院の利用の継続を行っています。	家族と連携を取り、友人の訪問や馴染みの美容室や商店に出掛ける等、利用者のこれまでの関わりを大切にされた支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の交流が出来るように職員が間に入り会話やゲームを楽しむ時間を大切にしています。		

グループホームまごの手

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても可能な限り入院先や他施設へ足を運び顔を合わせる機会を作っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の生活や会話から本人の希望や意向を把握しケアプランに反映し実現に取り組んでいます。	管理者、職員は利用者との日常の関わりの中から希望や意向の把握に努め、家族と連携を取りながら実現に取り組み、利用者が楽しみのある生活が送れる様に配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族から生活歴や趣味・嗜好等を伺い職員間で情報を共有し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を個別に記録し職員間の申し送りの際には状態の変化や生活で気づいた点を報告し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の意見を反映し職員一人ひとりの意見を提供してもらいスタッフ会議で今後の方向性を話し合っています。	ケアプラン実施表に担当職員のコментарを添え生活支援チェック表と共に家族に送付し、状況報告をすると共に家族も参加してのサービス担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は個別の介護記録に日々の様子や変化を記録し情報を共有する為勤務前には目を通し実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族の状況や希望に応じて通院や買い物・理美容等の外出の送迎は臨機応変に対応支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れや市内の催事に参加し安全で豊かな暮らしが楽しめるよう心掛けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医へ定期受診を継続しており必要に応じてご家族も同行していただいています。病状に変化があればご家族へ連絡し共に支える考えで相談しています。	利用者一人ひとりのかかりつけ医との関係を大切に、受診支援をしています。本年4月から医療連携を取り、訪問看護師が週に1度訪問し各ユニット隔週で健康管理を行い安心に繋がっています。	

グループホームまごの手

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制をとり定期訪問時には日頃の健康状態を報告し指導に添った支援を行っています。また急な体調の変化においても相談し適切な対応をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には職員が同行し情報提供を行い説明を受けています。入院中は馴染みの職員や利用者様が訪院し安心して治療していただけるよう支援すると共に退院後も不安なく生活できるよう病院との情報交換にも努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に関してはホームとして出来る対応を説明しています。更に訪問看護ステーションと連携しチームケアに取り込んでいます。	「重度化した場合における対応に係る指針」を定め関係機関と連携を取っています。利用者、家族には説明をし理解を得ると共に、職員は外部で行われる研修を受け終末期に向けたケアに備えています。	終末期における対応の研修は一部の職員が受講していますが、多くの職員は資料の回覧のみとなっています。内部での伝達研修にて情報や方針を共有する事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急を受講しています。緊急時の対応については定期的にマニュアルに目を通し連絡網に添って対応できるように周知しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の少ない夜間を想定した訓練を年2回行っています。緊急時の連絡網には地域の方にも協力いただき災害対策を築いています。	災害時における避難訓練を年2回実施しています。訓練には地域の方の参加を得て行っており、地域の方には、避難場所までの誘導と見守りの役割をお願いしています。他の災害に対する対策にも備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様一人ひとりの尊厳を守る声かけや対応を心がけています。個人情報に関しては同意書を交わしプライバシーの保護に留意しています。	利用者一人ひとりの尊厳を大切にプライバシーを損ねない介護を心掛けています。名前を呼ぶ時や、トイレの声掛けなどは特に注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が遠慮なく自分の思いや希望を表わせる環境作りに努めています。また自己選択できる状況を作り自己決定を促す声掛けにも工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますがその日の体調や気分に合わせて一人ひとりのペースを大切に希望に添った支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に着用する服はご本人に選んでいたでいます。外出する時の身だしなみはもちろんお化粧やおしゃれを楽しむ支援をしています。		

グループホームまごの手

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の体調や力量に合わせてメニューや準備・片付け等を職員と一緒に楽しみながら行えるように支援しています。	食事が楽しみになるように毎食職員が調理しています。食事制限のある利用者には病状に合わせた食事の提供をし、健康にも配慮しています。また、外食の日を設け利用者の希望を叶える様に配慮しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表を活用し把握しております。定期的に体重測定も行い健康管理に努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや介助にて行い就寝前には義歯の洗浄をお勧めしています。嚥下機能の予防のため口腔体操も毎日行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。利用者様の自立度に合わせ不快なく排泄できる支援を心掛け失禁時には羞恥心に配慮した対応をしています。	排泄チェック表を活用しパターンを把握し時間誘導で尊厳に配慮したさりげない声掛けをしながら、排泄の自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便が出来るよう予防に朝一の冷水・乳製品や青汁・野菜の多い食事に気を付けています。運動も働き掛け腹部マッサージやウォシュレット対応も行い時には下剤を使用しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の体調や希望を伺い対応し拒否的な方には気持ちよく入浴していただけるよう声かけに工夫をしています。時には仲の良い方との入浴も楽しまれています。	利用者の希望を考慮しながら概ね一日おきの入浴支援を行っています。拒否をされる利用者には無理をせずに、清拭や着替え、ウォシュレット等で清潔を保ちながら、気持ちよく入浴出来るよう促して、支援に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣を尊重し希望や状況に応じた対応をしています。夜間は安眠できるよう日中の活動を促し生活リズムを整えられるように支援しています。不眠時にはホットミルク等を飲みながら会話をし安心感を得られるように対応しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際には職員が同行し処方箋は個人ファイルに綴り常に確認できる状態にしています。服薬までには三人の職員が確認し容器は必ず回収しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活や生活歴などから張り合いや力を活かせる役割を見出し発揮できる機会を設けています。地域の行事等にも希望により参加出来る支援を行っています。			

グループホームまごの手

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に応じ散歩や買い物・公園などに外出しています。またご家族と協力し馴染みの理美容やご自宅へも外出できる支援をしています。	利用者のその日の希望に沿って散歩や、買い物、近隣町村の花を見に行くなど日常的に外出支援をしています。また、天気の良い日には畑の世話や外気浴で気分転換を計っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布は希望により個人もしくは事務所で預かりしています。買い物は職員が同行し力に応じた支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により自由に電話を使用できるよう支援しています。手紙が来た時には返信するように勧め発信できる支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な共有スペースを設け温度・湿度には気を付け清潔に保っています。南向きで日当たりが良く利用者様も自然と集まりだらんされています。季節に合った飾りや作品・行事等の写真を貼り居心地の良い環境作りに努めています。	ユニット間が開放されており利用者の行き来もあり開放的な空間となっています。各居間には空気清浄機が設置され快適に過ごせるように配慮されています。各ユニットの壁には利用者で作った作品や写真、職員が作った地名当てクイズ等が貼られ楽しく過ごせるように配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓と一緒にテレビ観ながら談話をしたり窓際の畳スペースでは洗濯たたみや昼寝をする等思い思いに過ごせる工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の希望により使い慣れた品々(日用品・ペット・冷蔵庫・仏壇・家族写真)を持参していただき家具の配置にも気を付け過ごしやすい環境作りに努めています。	利用者一人ひとりの居室には使い慣れた家具や仏壇、冷蔵庫、ぬいぐるみ、人形など趣味、好みの物が飾られています。希望された方には備え付けのベッドや整理ダンスを使用させていただく等利用者、家族の利便性に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は安全に暮らせるように家具等の配置に配慮しています。利用者様と一緒に行う台所仕事・掃除・洗濯干し・たたみ等の身の回りのことは見守りにて行える環境作り心がけています。		